



Yonago East Weekly

●創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
 ●例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
 ●会長/井上賢明 ●幹事/岩崎 浩 ●会報/荒川圭三

出席報告

会員数79名

今週のお祝い

結婚記念祝: 2日 中山晴文君 5日 新納哲雄君
 7日 細田耕治君 14日 鷺見雄司君 16日 安井峰男君
 23日 村上一平君 24日 高橋孝之君 25日 石部裕一君
 26日 小土井秀明君

会長挨拶

先日、米子市の美術館へ安部朱美さんの『昭和の家族』を妻と見に行ってきました。3、4年前にも丸京ギャラリーで拝見しましたが、今回も素晴らしい人形展です。それを見て感じた自分の気持ちというのが、旧き良き時代の郷愁というものです。「あー、いい時代だったよな」というのは実は不自由な時代だったわけです。貧乏人の子たくさんで、家族が囲炉裏を囲む今にも動き出しそうな人形たちでした。

今、原発で大騒ぎになっております。高速道路の土日1000円や無料高速が廃止。便利さを失うと人は不自由をものすごく感じるものです。原発のEPZといいまして10km圏内が保護区域になっており、それを30kmに増やそうという運動をしております。米子市の一部もかかります。そうしていろいろ要求しますが、不自由だったときのことを考えたらもっと見直さないといけないうんじやないか、豊かさは怖さも含んでいると思います。このように昭和の家族を見ているんなことを思いました。

幹事報告

1. 6月ロータリーレート 1ドル82円
2. 6/25(土) 青少年交換 派遣学生壮行会の案内 (アークホテル) ガバナー事務所より
3. 6/12(日) 中海一斉清掃の案内 (NPO法人中海再生プロジェクトより)
4. 例会変更のお知らせ
 鳥取中央RC 6/6(月) 夜間例会 ビジター受付あり
 鳥取西RC 6/10(金) " "

行事予定

- 6/15 休会
 新年度クラブ協議会
 6/29 夜間例会

次回プログラム

6月1日 「ロータリーの友」 足立博俊リーダー
 2010-2011理事報告

①杉本理事 ②小椋理事 ③長棟理事 ④宮本理事

8日 職場訪問「山陰労災病院」

15日 休会

22日 2010-2011年度報告

細田理事 (5分)

永島(清)会場監督 (5分)

岩崎(浩)幹事 (5分)

井上(賢)会長 (15分)

29日 夜間例会



Let's Join!

すすんで参加しよう!

《 プログラム 》

「 里親ファミリーホーム マザーズ・パームとしての思い 」

マザーズ・パーム代表 小原 幸恵 氏



私は児童養護施設に勤務する傍ら、施設を退所後帰るところのない子供たちの居場所として子供達を預かってきました。社会に出てから幸せを掴むまで引き続き支援を必要とする子供達もおります。虐待で施設に入所し、卒園後社会で挫折、施設に帰ったものの家には帰れず、我が家でスタートを切った子もいました。二十歳になり自分で親との籍をはずし、新しい家族を作り介護の仕事を両立させて頑張っております。仕事が落ち着くまで2年間応援した彼は、小学校2年で施設変更が考えられたことがありました。中学高校と養護学校に進み、我が家で話した言葉は施設変更されなくてよかった、家庭生活も体験できたし、バイクにも乗れたし、彼女とも付き合えたし、就職先の歓迎会の席で挨拶した言葉は「将来の夢は温かい家庭を作ることです」だったそうです。現在は社会人として歩いている里子がくれたメッセージです。「僕は施設にいるとき、親がいる友達が羨ましかった。僕に親がいたらどんなに幸せだろうと思った。僕の人生が変わっていただろうと思った事がいっぱいでした。でもこの家に来て羨ましいということが無くなりました。そしてたくさんの人に守られているということが分かりました。」

社会にも素晴らしい人がたくさんいると思えた出会いもありました。「首にかけても応援します」と応援してくださった高校の先生。「裁判所は裁くところではありません。幸せになってくれることを望んでいます。」と励ましていただいた出会い。これほど有り難く感じたことはありませんでした。一人でも多くの子供たちを社会に送り出したい。その思いに繋げてくれたのは5年前の彼のメッセージだったかもしれません。「今僕は保育士になるために一生懸命頑張っています。自分でもこの道に進んだことに少し驚いています。けど自分の歩いてきた道、自分の人生を前向きに受け止めていくこと、自信を持って生きていくこと。自分と同じような境遇の子供達に僕にしか出来ないことがある。そう考えたらこの道しかありませんでした。そうして再び学べる環境に立たせてくれた家族に感謝しています。」

里子たちは親からの壮絶な虐待、劣悪な生活環境、保護者の自殺など過酷な過去を背負って生きております。子供たちもいつか社会の人たちに優しく接してくれる日が来ると信じております。人生は谷あり山あり苦勞を喜びに変えて生きようとするとき、家族の絆を肌で伝えるファミリーホームでありたいと願っております。